

## 群馬県でも風しん患者の報告がありました

- 群馬県でも第36週（9月3日～9日）に1件（20代男性）の届出がありました。
- 全国的にも首都圏を中心に風しん患者の届出が増加しています。
- 風しんは予防接種で防ぐことができる感染症です。
  - ・ 定期接種の対象者（1歳、小学校入学前の1年間）は予防接種を確実に受けましょう。
  - ・ 30代から50代の男性は風しん抗体価保有率が低い世代と言われています。この世代の人は予防接種についてご検討ください。

### 風しんの患者報告数推移（群馬県・全国）

| （年） | 2011 | 2012  | 2013   | 2014 | 2015 | 2016 | 2017 | 2018* |
|-----|------|-------|--------|------|------|------|------|-------|
| 群馬県 | 0    | 18    | 54     | 0    | 0    | 1    | 0    | 1     |
| 全国  | 378  | 2,386 | 14,344 | 319  | 163  | 126  | 91   | 362   |

\*2018年は、群馬県9/9まで、全国は9/2までの数値。

#### ◆ どんな病気？

風しんは、発しん・発熱・リンパ節の腫れが主な症状です。潜伏期間は2～3週間で、発しんの出現前後7日くらいは感染力があると考えられています。

妊娠初期（20週くらいまで）の女性が風しんにかかると、生まれてくるこどもに白内障、先天性心疾患、難聴などが起こる可能性があります（先天性風しん症候群）。



#### ◆ 予防するには？

風しんの予防接種は2回受けましょう。

予防接種を希望する場合は、かかりつけの医師にご相談ください。

なお、風しん予防接種費用を助成する市町村もありますので、お住まいの市町村予防接種担当にお問い合わせください。

#### ◆ 風しんを疑う症状が出たときは

- 風しんの予防接種歴が不明な方、予防接種を2回受けていない方で、発熱や発しんなど風しんを疑う症状があった場合は、必ず受診前に医療機関に電話等で連絡しましょう。
- 医療機関に風しんを疑う旨を伝えた後は、指示に従い受診してください。受診の際はマスクをして、公共交通機関の利用は避けてください。
- 周囲に感染を広げないよう不要な外出は自粛し、妊婦との接触を避けましょう。